

研修プログラム統括責任者からの ご報告

社会医学系専門医研修「京都プログラム」

京都府立医科大学大学院医学研究科地域保健医療福祉行政システム学 教授
 京都府健康福祉部保健医療対策監、「京都プログラム」統括責任者

わたなべ よしゆき
 渡邊 能行



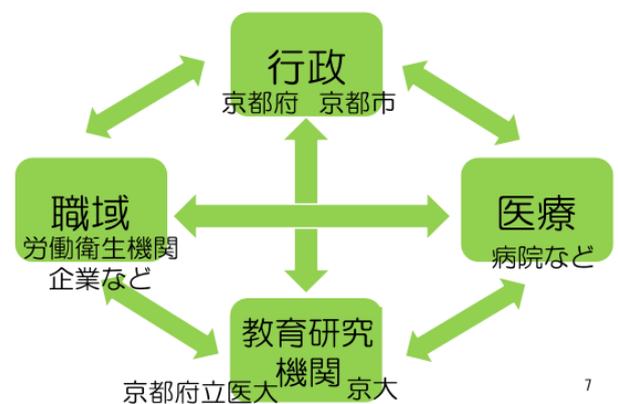
2018年1月24日（水）に東京で開催されました研修プログラム統括責任者連絡会議で発表させていただきました「京都プログラム」につきまして本紙面でも紹介させていただきます。

「京都プログラム」の特徴は下記図のように公衆衛生のネットワーク基盤を強化するために、京都府における医療機関以外の関係機関を一通り網羅的に、基幹施設・連携施設に組み込んでいることがあげられます。すなわち、医育機関である京都大学大学院医学研究科と京都府立医科大学大学院、行政機関の京都府と京都市の本庁と保健所、そして産業保健分野として（一財）京都工場保健会が参画しています。社会医学系専門医取得を目指す医師の多くは社会医学系大学院に在籍されている臨床医と考えられ、副分野として「行政・地域」と「産業・環境」を学びやすくしていると言えます。実際、登録していただいています専攻医は、京都大学大学院医学研究科、京都府立医科大学大学院、工場保健会に所属する臨床経験を持つ30代の医師が多くなっています。専門研修の過程では、「行政・地域」、「産業・環境」、「医療」の中から1つの主分野において実践活動を行う他、他の2つの副分野でも研修するわけですが、臨床医からみると敷居の高い「行政機関」と「職域機関」にアプローチしやすく、分野間の連携についても学習していただくことができます。ただ、「医療」については、病院の医療情報、経営企画、医療安全等を学ぶ必要があり、二つの医学部附属病院や京都府医師会・病

院協会等とのさらなる連携も必要と考えています。

また、京都府における社会医学系専門医研修のための唯一のプログラムということができるとおもいます。たった一つしかありませんので、京都府内におられる社会医学系専門医取得希望医師は迷うことなく本プログラ

公衆衛生のネットワーク基盤を強化する



ムに登録していただくことができることはメリットであると考えています。

まだ、始まって1年未満ですので試行錯誤を繰り返しても、登録された専攻医の先生方にとって意味あるプログラムに昇華させていくことが必要であり、このプログラムを通して社会医学全般の基盤の強化に資することができればと思っています。実際、関係者一同が2カ月に1回の頻度で研修プログラム管理委員会に集まり、相談しながら進めているところです。

研修プログラム統括責任者からの ご報告

東京都社会医学系専門医研修「TOKYOプログラム」の紹介

やうち まりこ
 東京都福祉保健局技監 矢内 真理子



東京都では、誰もが質の高い医療を受けられ、安心して暮らせる「東京」を実現するため、予防から治療、在宅療養に至る切れ目のない保健医療体制の構築や、ライフステージを通じた健康づくり、がん・生活習慣病対策、高齢者及び障害者施策の推進、健康危機管理体制の充実等の施策を進めています。

平成30年4月現在、126人の公衆衛生医師が、都内31か所の保健所(特別区では保健センター等もあります)や都庁、健康安全研究センターにおいて、さまざまな職種の方たちと連携し、これらの施策に取り組んでいます。

都民の健康と安全を守るというミッションにおいて大きな役割を担う公衆衛生医師の確保・育成は、都における大きな課題であり、これまでも、業務紹介リーフレット・動画の作

図1 東京都公衆衛生医師の勤務地



※ 公衆衛生医師の採用、人事交流は東京都福祉保健局が担当

成、保健所説明会の開催、医師募集イベント参加等の取り組みや、課長代理級(採用時は課長代理級となります)医師研修等を行ってきました。

公衆衛生医師の仕事は、より魅力ある、やりがいのあるものとするを目的として、社会医学系専門医制度に参加することを決定し、平成29年4月に社会医学系専門医協会より認定された、【行政・地域】を主分野とする東京都社会医学系専門医研修「TOKYOプログラム」を開始しました。

「TOKYOプログラム」の特徴としては、①東京都、中核市・保健所政令市、特別区の保健所や都庁内、健康安全研究センター等、多彩な特色を持った職場で、多職種と連携して幅広く公衆衛生行政を経験できる、②全配置先に、複数の指導医または専門医が配置され、指導・相談体制が整っている、③都が定期的実施する「課長代理級医師

図2 TOKYOプログラムの研修体制

1 研修プログラム管理委員会

- プログラム統括責任者 : 東京都福祉保健局技監
- 副プログラム統括責任者 : 東京都福祉保健局保健政策部長
- 事務局は、東京都福祉保健局保健政策部保健政策課が担当

2 専門研修施設群

- ① 研修基幹施設 : 東京都福祉保健局
- ② 研修連携施設 : 東京都保健所(6所)、特別区保健所(各区に1所、計23所)
八王子市保健所、町田市保健所
健康安全研究センター、精神保健福祉センター(3所)
東京都職員共済組合【産業・環境分野】
東京医科大学【医療分野】
- ③ 研修協力施設 : 東京都監察医務院、東京都教育庁、東京都病院経営本部(都立病院)、東京産業保健総合支援センター、東京検疫所、杏林大学医学部公衆衛生学、東京女子医科大学衛生学公衆衛生学第二講座、東京慈恵会医科大学環境保健医学講座、東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野、東京大学大学院医学系研究科社会医学専攻公衆衛生学、東京医科大学医学部公衆衛生学講座、順天堂大学医学部衛生学講座

研修」に、研修の企画段階から参加できる、④ 都が実施する「実地疫学調査研修」において、感染症対応の基本や応や集団感染事例等を学べる、⑤ マヒドン大学（タイ・バンコク）でのアジアの感染症対策研修に参加可能、また、東京都監察医務院や東京検疫所等の特色ある施設が研修協力施設となっている、こと等があげられます。

平成29年度には、新規採用の7人が専攻医を希望し、3年間の研修プログラムを開始しました。それぞれの職場で、指導医の下、担当業務を行いながら、基本プログラムの履修、実践経験レポートの作成、自己学習等に取り組みました。

保健所長会、保健所課長会のメンバーで構成される「TOKYO プログラム推進委員会」（プログラムを作成した「東京都社会医学系専門医制度検討会」から移行）が、プログラムの内容や、研修等の情報を「TOKYO 通信」として全ての指導医、専門医、専攻医に定期的に発信し、情報の共有を図っています。

事務局では、課題であった、研修連携施設・協力施設の拡充、研修内容の標準化（「経験すべき課題」の具体化、目標の設定）、指導医の意見交換会の開催、他分野からの専攻医受け入れ体制の整備等に取り組み、プログラム推進委員会の協力を得て、おおむね実施することができました。

平成30年度は、新たに7人の専攻医が研修を開始し、2年目の専攻医は、引き続き研修を重ね、学会発表や分野研修の準備にも取り組んでいます。

先日、平成30年度第1回研修プログラム管理委員会を開催し、今年度の専攻医の決定、プログラム運営状況の定期報告等を行いました。



今後も、さまざまな課題はありますが、「TOKYO プログラム」を円滑に運用し、専攻医が「TOKYO プログラム」の目指す能力を身に付け、東京都の公衆衛生医師として活躍していただけるよう、力を尽くしたいと考えています。

社会医学系専門医協会には、基本プログラム履修eラーニングの早期の開始と、実践経験レポートの様式や評価基準の提示の2点を要望させていただきます。

今月のお知らせ

※ 指導医講習会

学会名 全国衛生部長会
 タイトル 全国衛生部長会 指導医講習会
 日時 平成30年6月19日（火）16:00-16:45
 場所 ステーションコンファレンス東京 501ABS
 問合せ先 buchokai アットマーク jpha.or.jp

スパムメール防止のため、“@”は画像となっております。送信の際は“@”を直接入力してください。

シリーズ 国際労働衛生会議 (ICOH) 2018@Dublin 報告
ダブリンへの長旅

社会医学系専門医協会 理事

ICOH: Allergy & Immunotoxicology Scientific Committee, Chair

川崎医科大学衛生学

 おおつき たけみ
 大槻 剛巳


社会医学系専門医協会で活動されている先生方の中には、産業保健・労働衛生の分野でご活躍、そして、研鑽を積まれていらっしゃる先生方も、多くいらっしゃいます。

この分野の国際組織として、最大の ICOH: the International Commission on Occupational Health/国際労働衛生委員会の3年に一度の会議が、2018年4月29日から5月5日を会期として、アイルランドの首都、ダブリンの The Convention Center Dublinで開催されました。

私は、40近くある ICOH の中の Scientific Committee (SC) の一つ、Allergy & Immunotoxicology SC の Chair を、前回2015年に韓国のソウルで開催されました時に、引き継ぐことになりましたので、今回、この SC が主催するセッションに関連して参加してきました。

Secretary は、イタリアの女性研究者である Dr. Claudia Petrarca で、彼女と相談しながら、今年の

夏頃から、Allergy & Immunotoxicology のセッションへの応募の演題を、Special session (シンポジウムの感じで、一つの演題の発表時間も少し長め) 2つ、abstract session (いわゆる口演発表で、Special session よりは少し短い発表時間) 2つ、さらにポスター発表の分類をしたり、発表順を調整したりってことをしていたのですが、それでも近づいてくると、演者の誰々が参加登録していないとか、Special session での発表予定者からキャンセルの報が入ったとかで、なんだかバタバタした感じになってしまいました。

それでも4つのセッションの座長を務めつつ、2つのoral発表(写真で、Special session での私の発表の証拠を)やポスター発表をこなして無事に役目を果たせたかなって思っています。

岡山空港→羽田→フランクフルト→ダブリンで往復しましたが、長旅です。でも帰路のフランクフルトから羽田までは窓側でポツダムやベルリン、そしてポーランドからバルト三国の上空の湖沼などが広がる地域、ポーランドからロシアのグダニスク湾のクルシュー砂州、ラトビア首都のリガ近辺の西ドビナ川近辺の風景、さらに氷と雪のロシア上空から、最後はナホトカ上空から日本へといった機窓の風景を楽しむことができました。

あらら、学術的な内容は記載しないまま、さらにダブリン街歩きの様子もお伝えしないままですが、これからはばらく ICOH2018 に参加された先生方に紀行を寄せていただこうと思っています。研鑽、専攻されている先生方で産業医学分野を目指している方、3年後はメルボルン(豪州)、6年後はマラケッシュ(モロッコ)です。将来、そういう開催場所でお会いしましょう!

